様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１５日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：21530186
研究課題名（和文）　カール・メンガーについての伝記的研究

研究課題名（英文）　Biographical Studies on Carl Menger

研究代表者
池田　幸弘（IKEDA YUKIHIRO）
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：80211720

研究成果の概要（和文）：
オーストリア学派の始祖であるカール･メンガー(1840-1921))について、その伝記的情報を収集した。具体的には、ヴィーンに住んでからのメンガーの住所、そして彼自身の任官や給与に関わるような公的文書、さらにはメンガー筆の書評でハイエク版著作集には含まれていないものなどが主たる対象である。作業場所は、オーストリア国立文書館、オーストリア国立図書館、ヴィーン大学文書館、ヴィーン市･州文書館の四か所である。こうした作業の結果、将来メンガー伝を執筆するための基礎的資料の一部が確保できたと考えている。この間、2009 年度と 2011 年度に、それぞれオーストラリア経済思想史学会と北米経済学史学会で、メンガーについての報告を行う機会を得た。

研究成果の概要（英文）：
For a possible publication of biography of Carl Menger, I gathered various biographical information using the following archives and library: The Austrian State Archives, The Austrian National Library, The Vienna University Archive, The City and State Archive of Vienna. The material gathered consists of information concerning Menger's exact addresses in Vienna, which are basically unknown to this day; his public correspondence with Franz Joseph, the Ministry of Culture, etc. Furthermore I copied his book reviews in the Austrian National Library which are not included in the collected works of Menger, edited by Friedrich Hayek. Thus the research can be seen as an important step towards the completion of Menger's biography in the near future. Meanwhile I presented papers on Menger in 2009 and 2011, at the annual meeting of History of Economic Thought Society in Australia and History of Economics Society respectively.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：
カール･メンガー、オーストリア学派、フリードリッヒ・ハイエク、アダム・スミス、歴史学派、ヴィーン新聞、メンガー文庫、ルドルフ皇太子

１．研究開始当初の背景

オーストリア学派の創始者であるカール･メンガーはけっしてマイナーな存在ではない。近時における新自由主義的イデオロギーの台頭によるフリードリッヒ･ハイエクらにたいする再評価も手伝って、初期のオーストリア学派にたいする一般的な関心は増している。しかしながら、ウィリアム･ジェッフェの実証的なワルラス研究、とくに伝記的研究に比すると、メンガーの伝記的情報はいまだ欠けているといわざるをえない研究状況にある。わたくしはすでに公刊した学位論文において、メンガー『原理』公刊以前の伝記的情報についてはある程度言及したが、その後ヴィーン大学に就職してからの活動、とりわけ教育的活動については多くの課題を残していた。

２．研究の目的

1 に鑑み、メンガーにかんする伝記的情報を収集し分析することが目的である。

３．研究の方法

メンガーについての一次資料は、メンガー文庫を所蔵する一橋大学古典資料センター、メンガー･ペーパーズを所蔵するデューク大学パーキンズ図書館特殊コレクション、そしてヴィーンの各種文書館などにある。メンガー文庫については、私はすでに長年にわたって一橋大学でのメンガー文庫の閲覧をふまえた研究を行っており、またメンガー･ペーパーズについてもその一部は研究に利用している。今回は、とくにヴィーンにある各種文書館に所蔵されているメンガー関係の資料を収集し、メンガー伝執筆のための準備とする。

４．研究成果

初年度に二回、2010年度に二回、そして最終年度に一回、ヴィーンを訪問し、研究課題を遂行した。訪問した文書館、図書館は以下のとおりである。オーストリア国立文書館、オーストリア国立図書館、ヴィーン大学文書館、ヴィーン市･州文書館。
この過程で収集した資料は形式上、つぎのような範疇に分類できよう。

(1)　ヴィーン市･州文書館所蔵のヴィーンでのメンガーの居住所にかんする資料。これは、レーマンのマイクロフィルムで閲覧可能な状態にあった。メンガーはかなりの回数にわたってヴィーンで引越しをしている。晩年に至るほど、リング、ヴィーンの中心から離れていくのは興味深い。自宅に蔵書を保存していたとすればという前提にたてば、そのつどの引っ越しはかなり面倒だったはずである。一般に居住所にかんする情報は伝記執筆にさいしても基本的な情報だと考えられるが、今回の研究で、少なくともヴィーンに定住してからのメンガーの居住所については一定の成果が得られたと考えられる。

(2)　メンガー筆の書評。メンガーはかならずしも多作ではないが、一生の間に多くの書評をもの

している。ハイエク編著作集の第四巻末尾には、ビブリオグラフィが付してあり、その二部は日刊紙に公表された書評・論説が対象である。しかしながら、そのなかで著作集に再録されたものは少ない。たとえばハンス・フォン・シェール著の『相続税』についてメンガーは書評を書いている。それはシェールにたいする批判的論及であるとともに、そこにうかがわれるメンガーの政策的立場は興味深い。メンガーの財政学講義ノートはすでに公になっているので、あわせて彼の租税論や再分配政策にたいする考えを知ることができる。これは一例にすぎない。今回は、著作集に付せられているビブリオグラフィをもとにオーストリア国立図書館に赴き、書評をコピーし読解、分析を行った。さきに述べたように、書評のなかから浮き彫りにされるメンガー自身の政策的立場というものもあり、今後さらなる分析が必要とされる。

(3) メンガーから文部省、文部省からフランツ・ヨーゼフ、あるいはメンガーからフランツ・ヨーゼフにあてられたものなど、オーストリア国立文書館所蔵の資料。以下、ここで収集した資料の一部について解説する。

1872 年 8 月 7 日付けの、内務大臣からフランツ・ヨーゼフあての書簡。「ヴィーン新聞」についての言及があり、同紙の夕刊である「アーベントポスト」のコーナー、「一日の報告」のほとんどがメンガーによって書かれていると指摘している。また、「ヴィーン新聞」の経済コーナーの執筆がもっぱらメンガーによるものだとも指摘している。従来からも、ヴィーン新聞とメンガーとの関係については言及はなされてきた。それは、ヴィーザーが直接メンガーから聞いた話として伝えている「同新聞に市況報告を書くうちに伝統的な経済理論との齟齬を感じるようになった」というものである。これはある種の成功物語であり、大家となったメンガーがヴィーザーに語る「科学的発見のプロセス」である。ドイツ語圏では主観的な価値理論はイギリスの経済学界とはことなりむしろ主流だったので、この意味でもこの逸話は私にはまったく信じがたいが、「ヴィーン新聞」に市況報告を書いていたこと自体は、この書簡でも資料的に裏付けられたことになる。もとより、「一日の報告」や経済コーナーそれ自体の詳細な分析、とくに後年のメンガーの経済思想との関係については今後の課題であるというべきである。なお、この間メンガーがヴィーナー・ノイシュタットの軍事アカデミーの准教授として招聘される可能性があったことも、この書簡にみえている。

1875 年 2 月 2 日付けのメンガーから文部省あての書簡。この年の一月下旬に「ヴィーン新聞」の協力者の職を辞していることが記されている。これにたいする給与は 1100 fl だったので、実質的には五分の二以上の減給となり、それにたいする補填的な措置を三つの資料を使って主張したもの。書物の収集にはお金がかかることも率直に記されていて興味深い。すでに蔵書は過去二年間に誇張なく千冊以上増加したと記されている。年平均で換算して、五百冊の購入ペースである。メンガーはまだ三十代だが、蔵書家としての片鱗はすでにあらわれていることが知られる。

1875 年 9 月 30 付けのメンガーからフランツ・ヨーゼフあての書簡。メンガーが非業の死を遂げるルドルフ皇太子の教育係であったことはよく知られているし、その講義の概要も今日では公表されているので読むことができる。本書簡は、皇太子にたいする講義について皇帝に報告をしたもの。講義全体についての方針にも言及されており、とくに経済学における「個人主義者」と「倫理主義」との対立が後年の方法論争を予示している。なお、この書簡についてはすでにマルガレーテ・ボスのメンガー研究で一部、利用されて

いる。

上記の資料収集のほか、学会報告を行った。

Carl Menger's Liberalism Revisited
オーストラリア思想史学会 HETSA2009 Conference
2009年7月10日
The University of Notre Dame, Australia

Carl Menger and Adam Smith: Scottish Enlightenment Revisited
アメリカ経済学史学会History of Economics Society
2011年6月19日 ノートルダム大学

また、2012年3月に開催された進化経済学会に出席し、八木紀一郎氏の報告を拝聴する機会を得た。八木氏の報告は近著『オーストリア・ドイツの経済思想: 主観主義から社会的進化へ』をめぐるもので、報告者との議論のなかで当面の研究課題の進展にかかわるような示唆を得た。また、経済学史研究の方法についても、質疑応答を通じて意見交換を行った。

これらの研究成果の一部は以下で紹介する論文に生かされているが、上述の資料をふまえてのメンガーの伝記的情報の公表は今後の課題である。伝記公刊までに解決しなければならない問題はなお少なくない。たとえば、メンガー家の正確な系譜などもその一つである。いままでメンガーとドイツ経済思想史とのかかわりについて公表していた論文は一定数あるので、とりあえず、そちらを論文集の形で発表することを考えたい。欧文の書籍として公表することを考えて、早い機会に出版元との交渉に入りたい。メンガー伝の執筆と公表は、それをふまえての作業となろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１　件）
①Yukihiro Ikeda Menger's Attempt to Revise his *Grundsätze*: An Aborted Trial
Web 掲載
一橋大学社会科学古典資料センター
http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/menger/essay2.html
2010

〔学会発表〕（計２　件）
①Yukihiro Ikeda Carl Menger and Adam Smith: Scottish Enlightenment Revisited アメリカ経済学史学会History of Economics Society
2011年6月19日 The University of Notre Dame, USA

② Ykihiro Ikeda Carl Menger's Liberalism Revisited
オーストラリア思想史学会
HETSA2009 Conference 2009年7月10日
The University of Notre Dame,
Australia

〔図書〕（計３　件）
①Subjectivism and Objectivism in the History of Economic Thought
編著者 池田幸弘・八木紀一郎
出版社 Routledge 発行 2012 近刊

②Austrian Economics in Transition From Carl Menger to Friedrich Hayek Edited by Harald Hagemann, Tamotsu Nishizawa and Yukihiro Ikeda
出版社 Palgrave Macmillan 発行 2010 3頁～19頁

③ドイツ語圏における交換理論の発展、経済学のエピメーテウス 丸山徹編 出版者 知泉所館 発行 2010 163頁～185頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
池田　幸弘（IKEDA YUKIHIRO）
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：80211720

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：